

京都市上下水道事業中期経営プラン(2023-2027)

令和8年度計画

本計画は、「京(みやこ)の水ビジョン -あすをつくる- (2018-2027)」及びその後期5か年の実施計画である「中期経営プラン(2023-2027)」に掲げる事業を着実に推進するための単年度計画として策定するものです。

令和8年度は、プランの4年目として、プランの着実な推進とともに、令和10年度から始まる次期ビジョンの策定に向けて重要な1年となります。

財政面では、各種物価の高騰等による支出の増加の影響が大きく、建設改良のための積立金の確保については、プランを下回る厳しい見通しとなっていますが、老朽化した配水管の更新をはじめとした震災対策や、「雨に強いまちづくり」に向けた雨水幹線の整備等のプランに基づく事業を着実に推進し、持続可能な上下水道事業の実現に向けて全力で取り組んでまいります。



京都市上下水道局
マスコットキャラクター
ホテルの澄都(すみと)くん

目次

- | | |
|------------|-----|
| 1 事業推進計画 | P1 |
| 2 経営基盤強化計画 | P12 |



京都市上下水道局
マスコットキャラクター
ひかりちゃん

ビジョン・プランや予算・決算、経営評価などの経営情報については、上下水道局ホームページを御覧ください。

事業の概要や背景・課題などについても詳しく記載しています！

【経営情報の発信トップページ】

<https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000292343.html>



【令和8年度予算】

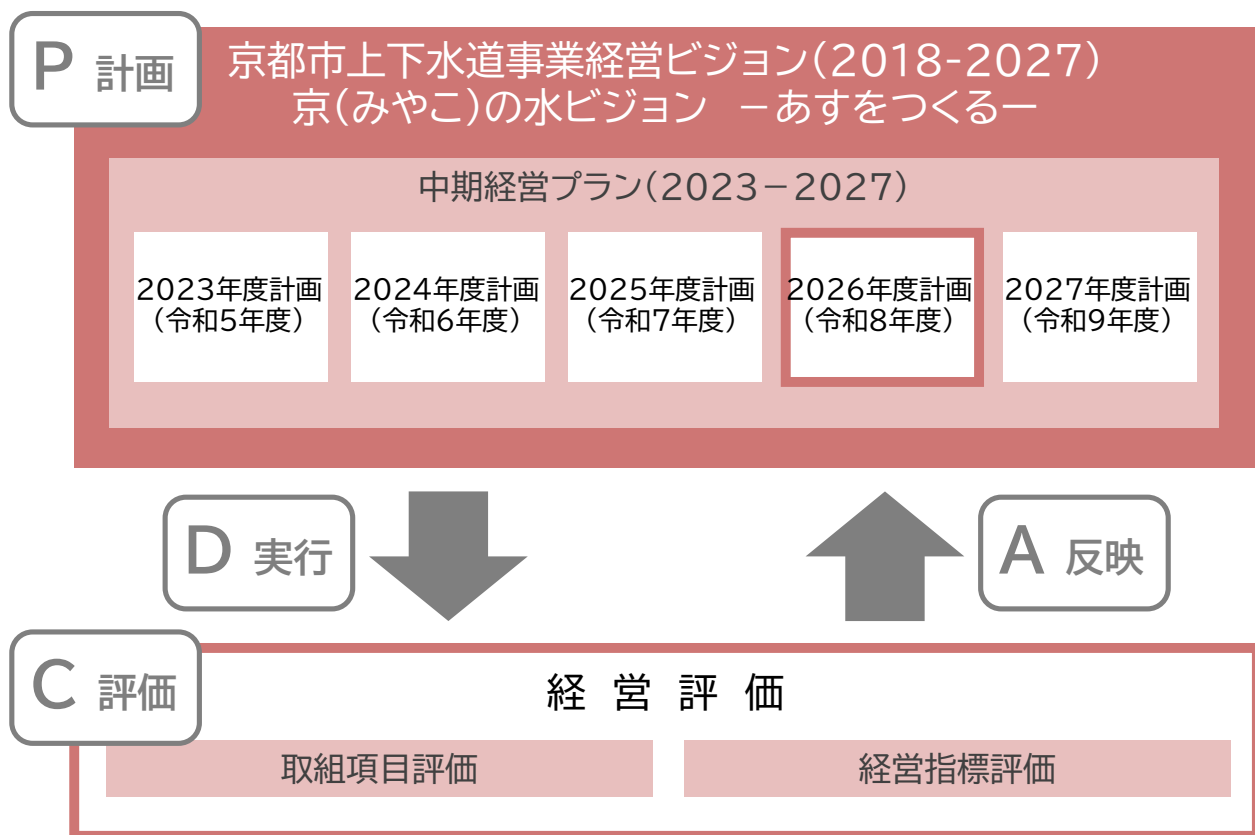
<https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000349937.html>



上下水道事業の経営管理

- 上下水道局では、平成30年3月に策定した「京都市上下水道事業経営ビジョン(2018-2027)京(みやこ)の水ビジョンーあすをつくるー」(以下「ビジョン」という。)及びその後期5か年の実施計画「中期経営プラン(2023-2027)」(以下「プラン」という。)に基づき事業を推進しています。
- また、ビジョン及びプランに掲げる事業を着実に推進するために、単年度の事業計画(以下「単年度計画」という。)を毎年度策定するとともに、予算を編成しています。
- 単年度計画は、プランの「事業推進計画」における当該年度の年次計画と、「経営基盤強化計画」における各取組で構成しています。
- 経営戦略のPDCAサイクルの「P」に位置付けられるプラン及び単年度計画に基づく各事業の推進に当たっては、毎年度、経営評価等による進捗管理(モニタリング)を実施しています。

【単年度計画の位置付け】



- 市民公募委員、学識経験者及び民間有識者で構成される「京都市上下水道事業審議会」において、経営評価による点検・評価に加え、事業全般に対し専門的かつ多角的な観点から提案・助言をいただいています。

2018 京の水ビジョンーあすをつくるー 2027

ビジョン・プランについて詳しくはホームページをご覧ください。

2023 中期経営プラン 2023-2027

2027

【視点③－方針②ささえる】



次期ビジョンの策定に向けた検討

- 「京(みやこ)の水ビジョン」が令和9年度末に終了することを踏まえ、次期ビジョンの策定に向けた検討を進めています。
- 次期ビジョンは、国において中長期の社会情勢を見据えた上下水道政策の在り方が検討されていることや京都基本構想の分野別計画としての位置付けを踏まえ、2050年までの長期のビジョンとして策定することを予定しています。
- 次期ビジョンの策定に当たっては、令和7年度に新たに設置した「京都市上下水道事業審議会(市民、学識経験者、民間有識者の10名の委員で構成)」において、老朽化した管路・施設の更新など事業の方向性はもとより、官民連携や広域連携、DXによる業務変革も含めた運営手法や料金制度も含めた財源の在り方等、あらゆる観点からの議論をいただき、これらの議論の内容も踏まえながら、上下水道事業の目指すべき姿と方向性を検討していきます。



審議内容	
第1回 (R7.8)	・京都市の上下水道事業の現状と課題、次期ビジョンの策定に向けて
第2回 (R7.12)	・今後の施設整備の方向性(施設マネジメントの検討結果等) ・今後の財源の在り方(水道事業における現状・課題、今後の見通し)
第3回 (R8.3)	・今後の施設整備の方向性(水道事業・下水道事業の今後の整備方針) ・今後の財源の在り方(下水道事業における現状・課題、今後の見通し)

上下水道事業審議会での主な意見



限られた財源の中で、AI等の新技術も活用しながら、重要施設へ接続する管路の更新・耐震化など、様々な要素から優先順位を精査し、管路と施設をバランスよく更新していくべきではないか。

将来の人口減少やカーボンニュートラルを見据え、高低差(自然流下)の活用や周辺自治体との最適な施設配置・相互融通について、長期的な視点から検討すべきではないか。



他都市と比べて高い水準にある企業債残高は、現在の水準を上げないようにすべき。企業債充当率については、50%を超えないよう留意すべき。

将来の改築・更新や耐震化のための財源を確保し、安定的な経営を継続するため、資産維持費のあり方や、将来的な使用料のあるべき水準というものを考え、将来の財政基盤の強化につなげてもらいたい。



視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針① つくる

水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります

水質管理(水道)、浄水場の改築更新や維持管理



主要な事業 — 【水道施設の改築更新・地震対策】



新山科浄水場導水トンネル築造工事
(トンネル掘進の様子)

45.4億円
【水道】

浄水場の基幹施設について、引き続き改築更新・地震対策を進めます。

令和8年度は、新山科浄水場導水トンネル築造工事を継続するとともに、新山科浄水場高区1・3号配水池耐震化工事に着手します。

数値目標	R7見込	R8目標	プラン目標(R9)
異臭(かび臭)のない水達成率	100.0%	100%	100%
導水施設の耐震化率	26.8%	設定なし	62%

取組① 水源から蛇口までの水質管理の徹底

令和8年度の
取組内容/目標等

- 原水水質監視装置更新工事の着手
- 令和8年度水道水質検査計画に基づく原水及び水道水の水質検査の実施
- 令和9年度水道水質検査計画の策定
- 水道GLPの認証に係る更新審査
- 水安全計画の運用、見直し

取組② 原水水質の変化に対応した最適な浄水処理の推進

令和8年度の
実施内容/目標等

- 高機能な粉末活性炭の注入
- 処理プロセスの最適化、高度化に向けた検討
- 水道施設に関する基本情報や修理履歴等データベースの活用

取組③ 安定的に水道水をつくるための水道基幹施設の改築更新・耐震化

令和8年度の
実施内容/目標等

- 新山科浄水場導水トンネル築造工事实施(H29年度事業開始・R14年度工事完了予定)
- 新山科浄水場1系浄水施設改良工事实施(R5年度事業開始・R8年度工事完了予定)
- 新山科浄水場高区1・3号配水池耐震化工事实施
(R8年度事業開始・R10年度工事完了予定)
- 蹴上浄水場第1・第2配電室電気設備更新工事实施
(R7年度事業開始・R8年度工事完了予定)
- 蹴上浄水場中央監視制御設備更新工事实施
(R7年度事業開始・R10年度工事完了予定)

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針② はこぶ

老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます

水道・下水道管路の改築更新や維持管理



主要な事業 — 【水道管路の改築更新・地震対策】



配水管工事

142.6億円
【水道】

老朽化した水道管路の更新を継続（約55km）し、更新時には、耐震性・耐久性に優れる管材料を使用することで耐震化を図ります。

また、給水のバックアップ機能を強化するため、隣接する給水区域間をつなぐ連絡幹線配水管の布設を引き続き実施します。

数値目標	R7見込	R8目標	プラン目標(R9)
有収率	91.9%	91.9%	92.0%
老朽配水管の解消率	62.4%	67.5%	74%
主要管路の耐震適合性管の割合	63.0%	64.0%	66%

取組① 配水管等の適切な維持管理の推進

令和8年度の
実施内容/目標等

- 配水管の洗浄作業の実施
- 漏水調査の実施

取組② 安定的に水道水を供給するための配水管の更新・耐震化

令和8年度の
実施内容/目標等

- **老朽化した配水管の更新・耐震化の実施 54.9km**
- **低区御池連絡幹線配水管布設工事实施**
(H26年度事業開始・R9年度工事完了予定)

取組③ 安全・安心な水道水をお届けするための給水サービスの向上

令和8年度の
実施内容/目標等

- 貯水槽水道の設置者への啓発・助言
- 直結式給水のPR
- 新規指定給水装置工事事業者を対象とした説明会の実施
- 指定給水装置工事事業者を対象とした更新手続きの実施

主要な事業 – 【下水道管路の改築更新・地震対策】



下水道管路の更生工事

96.9億円
【下水道】

更生工法(長寿命化)や布設替えにより、老朽化した下水道管路の計画的な更新と重要な下水道管路の耐震化を進めます。

令和8年度は、引き続き約33kmの下水道管路について、改築更新・地震対策を進めます。

また、住吉ポンプ場において、監視制御設備工事を継続して実施するとともに、雨水ポンプ設備の更新工事に着手します。

数値目標	R7見込	R8目標	プラン目標(R9)
下水道管路改築・地震対策率	38.1%	41.5%	44%

取組④ 下水道管路の適切な維持管理の推進

令和8年度の
実施内容/目標等

- 下水道管路の計画的な巡視や点検調査
- 腐食のおそれ大きい箇所点検調査 2.9km
- 下水道管路の全国特別重点調査を踏まえた大口径下水道管路の健全性確保

取組⑤ 優先度を踏まえた下水道管路の改築更新・耐震化

令和8年度の
実施内容/目標等

- 下水道管路の調査及び改築・地震対策の実施 33km
- ポンプ場遠方監視制御設備改築工事の実施 (R6年度事業開始・R8年度運用開始予定)

取組⑥ 適切に下水道をお使いいただくための啓発や勧奨

令和8年度の
実施内容/目標等

- 全戸訪問による水洗化勧奨の実施
- 工場・事業場への立入検査 年間1,200回以上

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針③ きれいにする

下水をきれいにして川へ返し、市内河川や下流域の水環境を保全します

水質管理(下水)、水環境保全センターの改築更新や維持管理



主要な事業 - 【下水処理施設の改築更新・地震対策】



鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉

54.4億円
【下水道】

水環境保全センターの主要な施設について、引き続き改築更新・地震対策を進めます。

令和8年度は、鳥羽水環境保全センターにおいて、汚泥焼却炉改築更新工事、沈砂池改築更新工事を継続して実施するとともに、第2東ポンプ場ポンプ設備の更新工事等に着手します。

数値目標	R7見込	R8目標	プラン目標(R9)
高度処理管理目標水質達成率	100%	100%	100%
処理施設の改築更新数(R5-R9)	年間5施設	設定なし (累計26施設)	累計31施設 (令和5-9年度)

取組① 下水の高度処理や適切な水質管理による処理水質の維持・向上

令和8年度の
実施内容/目標等

- 点検整備計画に基づく施設の定期整備の実施
- 下水道施設に関する基本情報や修繕履歴等のデータベースの活用
- 水質管理計画の見直し・継続運用
- 効果的・効率的な運転管理に関する調査・研究の実施

取組② 水環境保全センター施設の再構築

令和8年度の
実施内容/目標等

- 鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉改築工事実施
(R5年度事業開始・R9年度運転開始予定)
- 鳥羽水環境保全センター沈砂池改築工事実施
(R7年度事業開始・R11年度運用開始予定)
- 鳥羽水環境保全センター吉祥院支所の貯留水を鳥羽水環境保全センターへ送水実施

取組③ 健全な水環境を保全するための合流式下水道の改善

令和8年度の
実施内容/目標等

- 合流式下水道改善対策施設の継続運用及び放流水の水質検査の実施

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針④ まもる

市民の皆さまとともに、地震や大雨などの災害から、まちとくらしを守ります

防災・減災対策(公助、共助・自助)や浸水対策



主要な事業 – 【浸水対策の推進】



鳥羽第3導水きよ

40.9億円
【下水道】

「雨に強いまちづくり」を推進し、浸水に対する安全度を更に向上させるため、大雨の時に雨水を取り込む雨水幹線等の整備を引き続き進めます。

令和8年度は、鳥羽第3導水きよの整備を継続して実施します。

数値目標	R7見込	R8目標	プラン目標(R9)
飲料水の備蓄率	56.3%	64.0%	65%
雨水整備率(10年確率降雨対応)	35.0%	設定なし	40%

取組① 「公助」としての災害に強い施設整備や危機管理体制の強化

令和8年度の
実施内容/目標等

- 各種計画、マニュアル及びBCPの運用、点検及び見直し
- 災害を想定した実践的なマニュアル運用訓練及び研修の実施
- 大都市や京都府内の自治体、民間事業者との防災訓練、情報交換の実施
- ICTを活用した防災・危機管理情報発信の充実
- **災害時の情報統括環境の整備**
- **災害用マンホールトイレの継続的な整備 18か所(R8年度末:239か所)**

取組② 「自助」の意識啓発や「共助」の推進による災害対応力の強化

令和8年度の
実施内容/目標等

- 災害用備蓄飲料水の積極的かつ効果的な啓発活動
- 自助に関する情報発信の充実及び強化
- 各区役所・支所と連携した自主防災組織への防災研修の実施
- 各行政区、学区、地域等が主催する防災訓練への参加
- 共助に関する情報発信の充実及び強化

取組③ 「雨に強いまちづくり」を実現するための浸水対策の推進

令和8年度の
実施内容/目標等

- **鳥羽第3導水きよ工事实施(R2年度事業開始・R9年度運用開始予定)**
- 雨水貯留施設及び雨水浸透ますの普及促進
- 関係局区が連携した雨に強いまちづくりの取組の推進

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針⑤ いどむ

新しい技術を取り入れながら、周辺地域や海外を含めた広い視野で、未来に向けた挑戦を続けます



新技術の調査・研究、広域化・広域連携等

主要な事業 - 【未来の上下水道事業につながる調査・研究の実施】

▼ 蹴上浄水場に設置した実験プラント



▼ デジタル空間を活用した業務の合理化



1.0億円
【水道・下水道】

水道事業では、水道水源における臭気物質への対応等、最適な浄水プロセス等を検討するため、実験プラントを用いて調査研究を実施します。

下水道事業では、施設の点検の合理化を目指し、デジタル空間を活用した手法に関する研究を実施します。

このほか、上下水道局内で民間企業にDX等の新技術を紹介いただく取組を令和8年度も継続して実施します。(ゼロ予算)

数値目標	R7見込	R8目標	プラン目標(R9)
新技術の調査研究件数(R5-R9)	年間65件	年間50件 (累計222件)	累計150件 (令和5-9年度)

取組① 常に発展し続けるための新技術の調査・研究

令和8年度の
実施内容/目標等

- 新技術の調査・研究の実施(衛星画像を活用した広域漏水調査、水道管路の更新優先順位付け手法の研究、AIを活用した下水道管の劣化判定等の研究等)
- 外部機関との共同研究の局ホームページによる募集
- 各研究発表会(全国水道研究発表会、全国下水道研究発表会等)や論文掲載等での研究成果の発信

取組② 広域化・広域連携におけるリーダーシップの発揮

令和8年度の
実施内容/目標等

- 「京都水道グランドデザイン」等関連計画に基づく広域化の在り方の検討
- 広域連携の取組の推進
(共同研修、水質検査の受託、資機材の相互融通に向けた検討、衛星画像を活用した広域漏水調査【視点①-方針⑤-取組①再掲】)
- 大都市や京都府内の自治体、民間事業者との防災訓練、情報交換の実施【視点①-方針④-取組①再掲】
- 琵琶湖・淀川流域都市間の協議会等への参画

取組③ 国際協力事業の推進と国際貢献を通じた職員の育成

令和8年度の
実施内容/目標等

- JICA等を通じた海外からの研修・視察等の受入れ
- 他都市との情報交換等の実施
- 職員の知識・技術力の向上(JICA能力強化研修等への受講機会の設定等)

視点② 京の水でころをはぐくむ

方針① こたえる

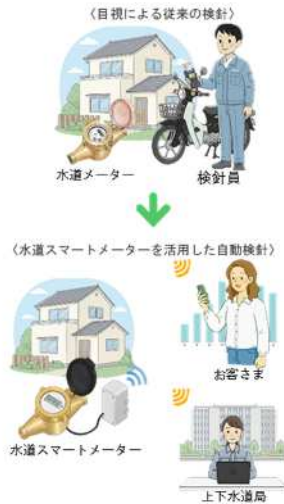
分かりやすく伝え、しっかりと声を受け止め、市民の皆さまの期待に応え続けます

お客さまサービス、広報・広聴活動



主要な事業 - 【新たなお客さまサービスの展開(水道スマートメーターの活用)】

▼ 水道スマートメーターの活用イメージ



1.2億円
【水道】

このうち61百万円は、
国の交付金を財源として活用する予定

労働人口の減少による将来的な検針員不足に対応するため、水道スマートメーターを活用した自動検針を一部地域で導入し、実運用及び検証を開始します。

これまでの調査研究や実証実験を踏まえ、まずは、市内中心部と比べて導入効果の大きい山間地域等に令和8年度～令和10年度の3年間で順次導入します。

水道スマートメーターの活用により、検針業務の効率化をはじめ、時間ごとの検針情報を取得することが可能となるため、京都市上下水道局アプリと連携して、これまで以上に詳細な水の使用状況や漏水の早期発見に役立つ情報(漏水疑いのお知らせ等)が提供できるようになるなど、お客さまサービスの向上が期待できます。

数値目標	R7見込	R8目標	プラン目標(R9)
サービスの利用全般に対するお客さま満足度	95.3%	90%以上	70%以上を維持
インターネットを活用したサービスの利用件数	年間46,265件	年間45,000件 (累計約35万件)	累計25万件 (平成30～令和9年度)
広報活動・媒体の認知度	32.9%	45.0%	50%

取組① お客さま窓口機能の充実とマーケティング機能の強化

令和8年度の
実施内容/目標等

- 大口利用者利用状況調査による新たなサービスに関するニーズの調査、地下水等利用専用水道利用者への訪問・ヒアリング
- お客さま対応研修の実施・ご意見メール等への対応

取組② お客さまの声を反映した新たなサービスの展開

令和8年度の
実施内容/目標等

- 手続きのオンライン化・ペーパーレスの調査・研究
- スマホアプリ導入の効果・課題の検証
- 新たなお客さまサービスの調査・研究
- **水道スマートメーターの先行導入**
- 水道スマートメーターに関する調査・研究

取組③ 京の上下水道を未来へ継承する広報・広聴活動の推進

令和8年度の
実施内容/目標等

- 上下水道事業への理解促進につながるイベント等の実施、広報紙の各戸配布
- 水需要喚起を図る広報活動
- クロスメディア広報の展開
- オンラインを活用した上下水道モニター制度等の実施

視点② 京の水でところをはぐくむ

方針② ゆたかにする

琵琶湖疏水の魅力を高め、地球環境にやさしい事業運営により、まちやところをゆたかにします

文化や景観、地球環境に配慮した事業運営



主要な事業 — 【琵琶湖疏水の魅力発信(びわ湖疏水船、琵琶湖疏水記念館)】



びわ湖疏水船事業



琵琶湖疏水記念館



73百万円
【水道】

このうち65百万円は、国の補助金及び寄附金等を財源として活用します。

令和7年度の琵琶湖疏水施設の国宝・重要文化財の指定を踏まえ、びわ湖疏水船事業(実施主体:琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会)を通して、国からの交付金も活用しながら、琵琶湖疏水沿線の更なる魅力向上を促進するほか、琵琶湖疏水記念館における企画展の開催などに取り組み、琵琶湖疏水の魅力向上・情報発信を図ります。

数値目標	R7見込	R8目標	プラン目標(R9)
琵琶湖疏水記念館来館者数	年間15.8万人	年間21.2万人 (累計354.4万人)	累計370万人 (平成元～令和9年度)
事業活動に伴う温室効果ガスの排出量削減率(H25比)	45%※	39%	39%
汚泥有効利用率	72.9%	70.2%	75%以上を維持

※温室効果ガス排出量の算出に係る排出係数の確定時期の関係から、令和5年度実績を掲載

取組① 琵琶湖疏水の魅力発信等による文化・景観や観光振興への貢献

令和8年度の
実施内容/目標等

- 疏水路の維持管理・整備
- **びわ湖疏水船PR推進**
- びわ湖疏水船スタッフの育成等の運営支援及び親子乗船会等
- 琵琶湖疏水沿線の魅力向上
- **琵琶湖疏水記念館の魅力向上・賑わい創出**

取組② 創エネルギー・省エネルギーによる脱炭素社会の実現への貢献

令和8年度の
実施内容/目標等

- 省エネ・高効率機器の採用、照明のLED化による使用電力の削減
- **太陽光発電等の創エネルギーの取組の継続的運用**
- 鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉改築工事実施【視点①-方針③-取組②再掲】
- 環境マネジメントシステムの継続的運用
- 環境報告書の発行

取組③ 地球環境にやさしい循環型まちづくりへの貢献

令和8年度の
実施内容/目標等

- 固形燃料及び消化ガスの有効活用
- 焼却灰等の有効利用
- 鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉改築工事実施【視点①-方針③-取組②再掲】

視点③ 京の水をささえつづける

方針① になう

これまで培ってきた技術をしっかりと継承し、京の水の担い手を育て、きずなを強めます

職員の育成、市民・事業者の皆さまとの連携



主要な事業 – 【技術力の向上・技術継承の推進とチャレンジ精神あふれる職員の育成】



採用2年目の技術職員を対象とした
専門技術研修の様子

34百万円
【水道・下水道】

中堅・若手職員を対象に、体系的な技術研修を計画的に実施します。さらに、e-ラーニングや体験型研修施設等の効果的な活用を通じて、職員の技術力の向上と技術継承を推進します。

また、災害対応やデジタル化といった多様な事業課題に対応するため、実践的な研修を展開します。加えて、資格取得支援制度の利用促進や民間企業との相互研修、若手職員同士の交流機会の創出を通じて、チャレンジ精神にあふれる職員を育成します。

数値目標	R7見込	R8目標	プラン目標(R9)
技術系資格保持者の割合	46.0%	48.0%	50%

取組① 将来にわたり水道・下水道を支え続ける企業力の向上

令和8年度の
実施内容/目標等

- 中堅・若手職員に向けた体系的な技術研修の実施(年間延べ受講者数500人)
- e-ラーニングの効果的な活用(技術研修受講者への確認テストの平均点90点)
- 災害対応力やデジタル力向上に資する実践的な研修の実施、資格取得支援制度の利用促進
- 若手職員の活発な交流機会の創出
- コンプライアンス研修の継続的な実施
- 採用活動の充実化
- OJTを強化する取組や人事交流の推進
- 働き方改革の推進

取組② 京の水をともに支える市民・事業者の皆さまとの更なる連携

令和8年度の
実施内容/目標等

- 水道・下水道のご利用等に係る情報発信
- 市民・事業者による水道技術研修施設の活用
- オープンデータの取組の推進
- 公契約基本条例に基づく取組の推進
- 緊急対応業務等の一般財団法人京都市上下水道サービス協会への委託(継続)
- 上下水道サービス協会との災害時協定書に基づく取組の実施

視点③ 京の水をささえつづける

方針② ささえる

50年後、100年後を見据えた経営を行い、将来にわたって京の水を支え続けます

事業の効率化など、長期的な視点に立った経営



主要な事業 – 【保有資産の有効活用】



鳥羽水環境保全センター西側用地
(令和8年度に売却を予定している下水道用地の一部)

収入 **12.3**億円
【水道・下水道】

財務体質の更なる強化に向けて、保有資産の有効活用を進めます。

令和8年度は、引き続き、山ノ内浄水場跡地、本庁舎跡地及び総合庁舎内の資産活用スペース等の貸付を実施するとともに、京都府南部消防指令センター設置等に伴い、下水道用地を消防局へ有償管理換え(売却)する予定です。

数値目標	R7見込	R8目標	プラン目標(R9)
下水道の大規模更新に備えた積立金の残高	116.6億円	131.6億円	160億円
企業債残高	3,917億円	3,841億円	3,800億円

取組① 施設マネジメントの実践等によるライフサイクルコストの縮減

- 令和8年度の実施内容/目標等
- 管路及び施設等に関する情報のデジタル化の推進
 - 優先順位を踏まえた建設事業計画の作成・実施
 - **次期ビジョンにおける建設事業の検討**
 - 庁舎長期修繕計画に基づく修繕の実施
 - 工事検査の手法改善の継続実施

取組② 業務執行体制の見直しや民間活力の導入等による経営の効率化

- 令和8年度の実施内容/目標等
- 第7期効率化推進計画に基づく組織・業務の再編、職員定数の減(△18人)
 - 民間活力の導入の推進(鳥羽水環境保全センター運転監視等業務の一部委託化)
 - デジタル技術を活用した業務の効率化
 - 新技術の導入に向けた調査・研究
 - 業務システム用サーバ仮想化の実施

取組③ 将来にわたって事業を持続していくための財務体質の更なる強化

- 令和8年度の実施内容/目標等
- 資産維持費の活用等による企業債の発行抑制及びこれによる支払利息の削減
 - 下水道大規模更新等に備えた積立金の確保
 - **保有資産の有効活用の検討及び売却・貸付の推進**
 - 上下水道局本庁舎跡地の暫定活用
 - 新たな収入源の検討

取組④ 継続的な経営改善の推進と適正な料金施策の検討

- 令和8年度の実施内容/目標等
- **次期ビジョンの策定に向けた検討**
 - 単年度事業計画の策定・実践及び進捗管理並びに経営評価の実施
 - **経営状況に係る情報発信**
 - 水道施設維持負担金制度の適切な運用
 - 将来を見据えた適正な水道料金・下水道使用料の在り方の検討

2 経営基盤強化計画

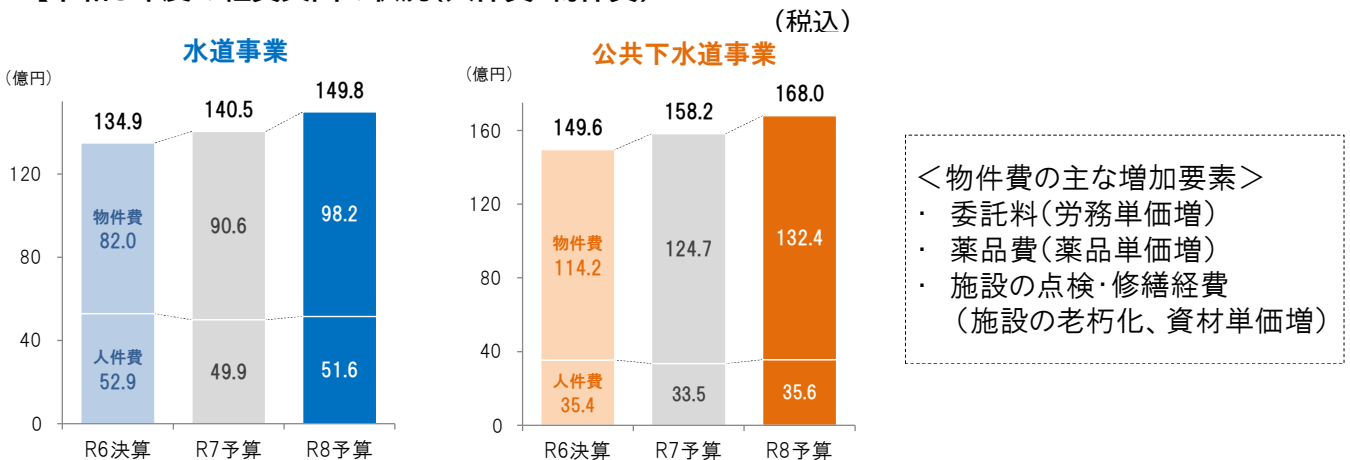
● 老朽化した管路や施設の改築更新・地震対策、大雨からまちや暮らしを守る浸水対策など、市民の安全・安心につながる取組を着実に進めるためには、**効率的な事業運営を推進**することで収支改善に努め、事業の財源となる建設改良積立金(利益)をしっかりと確保する必要があります。

令和8年度の主な取組の内容は以下のとおりです。各取組を着実に進めていきますが、各種物価の高騰等により、経費支出はプランを大きく上回る見通しです。

【令和8年度の主な取組】

業務執行体制の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 民間活力の導入(水環境保全センターの運転監視等業務)等
効率的な事業運営	<ul style="list-style-type: none"> 水道配水管更新による漏水修繕経費や下水汚泥から生成する消化ガスの利用による都市ガス購入経費の減 ※ これらのほか、あらゆる業務について再点検と見直しを実施
その他	<ul style="list-style-type: none"> 企業債借入方式の見直し(長期債から短期債への変更)等による支払利息の削減 保有資産の有効活用による収入の確保(12.3億円) 下水道事業における将来の大規模更新に備えた積立金の効率的な資金運用(債券運用)の実施

【令和8年度の経費支出の状況(人件費・物件費)】



上下水道局はSDGsを推進しています

SDGs(エスディーゼーズ)は、「誰一人取り残さない」を合言葉に、人権、格差是正、教育、環境、平和など、持続可能な社会の実現を国際社会全体で目指す17の普遍的なゴール(目標)と、169のターゲット(達成基準)であり、実現に向けて各国政府だけでなく、地方公共団体や企業等の主体的な取組が求められています。

SDGsの理念や方向性等については、ビジョン及びプラン等と共通するものであり、上下水道局は、ビジョン及びプランのもと、SDGsの達成に向けた取組を推進しています。

関連するSDGsの目標(ゴール)



【参考】令和8年度数値目標一覧※1

区分	指標名	R7見込	R8目標	プラン目標 (R9)	
プラン全体	1 事業に対する総合満足度	69.3%	70%以上	70%以上を維持	
①京の水をみらいへつなぐ	①しるる	2 異臭(かび臭)のない水達成率	100.0%	100%	100%
		3 導水施設の耐震化率※2	26.8%	—	62%
	②はじ	4 有収率	91.9%	91.9%	92.0%
		5 老朽配水管の解消率	62.4%	67.5%	74%
		6 主要管路の耐震適合性管の割合	63.0%	64.0%	66%
	③されいに	7 下水道管路改築・地震対策率	38.1%	41.5%	44%
		8 高度処理管理目標水質達成率	100%	100%	100%
	④まもる	9 処理施設の改築更新数※2	年間5施設	— (累計26施設)	累計31施設 (令和5-9年度)
		10 飲料水の備蓄率	56.3%	64.0%	65%
	⑤いどむ	11 雨水整備率(10年確率降雨対応)※2	35.0%	—	40%
		12 新技術等の調査研究数	年間65件	年間50件 (累計222件)	累計150件 (令和5-9年度)
②京の水でこころをはぐくむ	①こたえる	13 サービスの利用全般に対するお客さま満足度	95.3%	90%以上	70%以上を維持
		14 インターネットを活用したサービスの利用件数	年間46,265件	年間45,000件 (累計約35万件)	累計25万件 (平成30~令和9年度)
		15 広報活動・媒体の認知度	32.9%	45.0%	50%
	②ゆたかにする	16 琵琶湖疏水記念館来館者数	年間15.8万人	年間21.2万人 (累計354.4万人)	累計370万人 (平成元~令和9年度)
		17 事業活動に伴う温室効果ガスの排出量削減率(2013(平成25)年度比)※3	45%	39%	39%
		18 汚泥有効利用率	72.9%	70.2%	75%以上を維持
③京の水をキヤンペーン	①になう	19 技術系資格保持者の割合	46.0%	48.0%	50%
		②やかん	20 下水道の大規模更新に備えた積立金の残高	116.6億円	131.6億円
	21 企業債残高		3,917億円	3,841億円	3,800億円

※1 「浄水施設の耐震化率」「配水池の耐震化率」「合流式下水道改善率」の3項目は、令和7年度末時点でプラン目標を達成又は達成見込であるため、令和8年度の目標設定なし

※2 当該年度中に事業が完了しないため数値が向上しない目標は、令和8年度の目標設定なし

※3 温室効果ガス排出量の算出に係る排出係数の確定時期の関係から、令和5年度実績を掲載